

第1章 概況

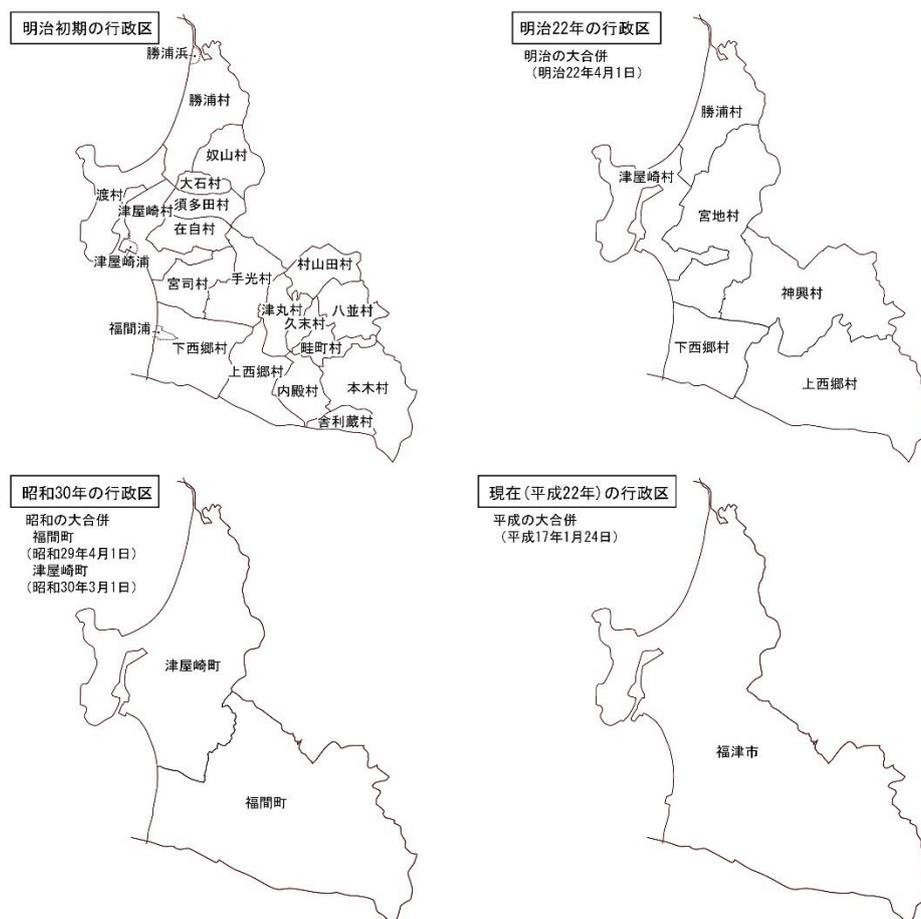
1. 沿革

江戸時代、福津市の区域内には19の村と3つの浦がありました。明治に入って間もなく浦は廃止され、明治5（1872）年ごろ津屋崎浦は津屋崎村と、勝浦浜は勝浦村と合併、明治9（1876）年福間浦は下西郷村と合併しました。

明治22年（1889）年の市制町村制施行により、19あった村は下西郷村・神興村・上西郷村・津屋崎村・宮地村・勝浦村の6村になりました。その後、津屋崎村は明治30（1897）年に町制を施行、津屋崎町となり明治42（1909）年には宮地村と合併、同年下西郷村は福間町となりました。大正7（1918）年、津屋崎町の大字であった奴山が勝浦村と合併、枝村であった生家は津屋崎町に残りました。

昭和28（1953）年の町村合併促進法による、いわゆる「昭和の大合併」では、まず昭和29（1954）年に福間町・上西郷村・神興村が合併して福間町となり、この際、神興村の村山田の大部分は宗像町へ移りました。翌、昭和30（1955）年、津屋崎町は勝浦村と合併し津屋崎町となりました。そして、平成17（2005）年1月24日、福間町と津屋崎町が合併し、福津市となりました。

図1-1 行政区域の変遷（沿革）

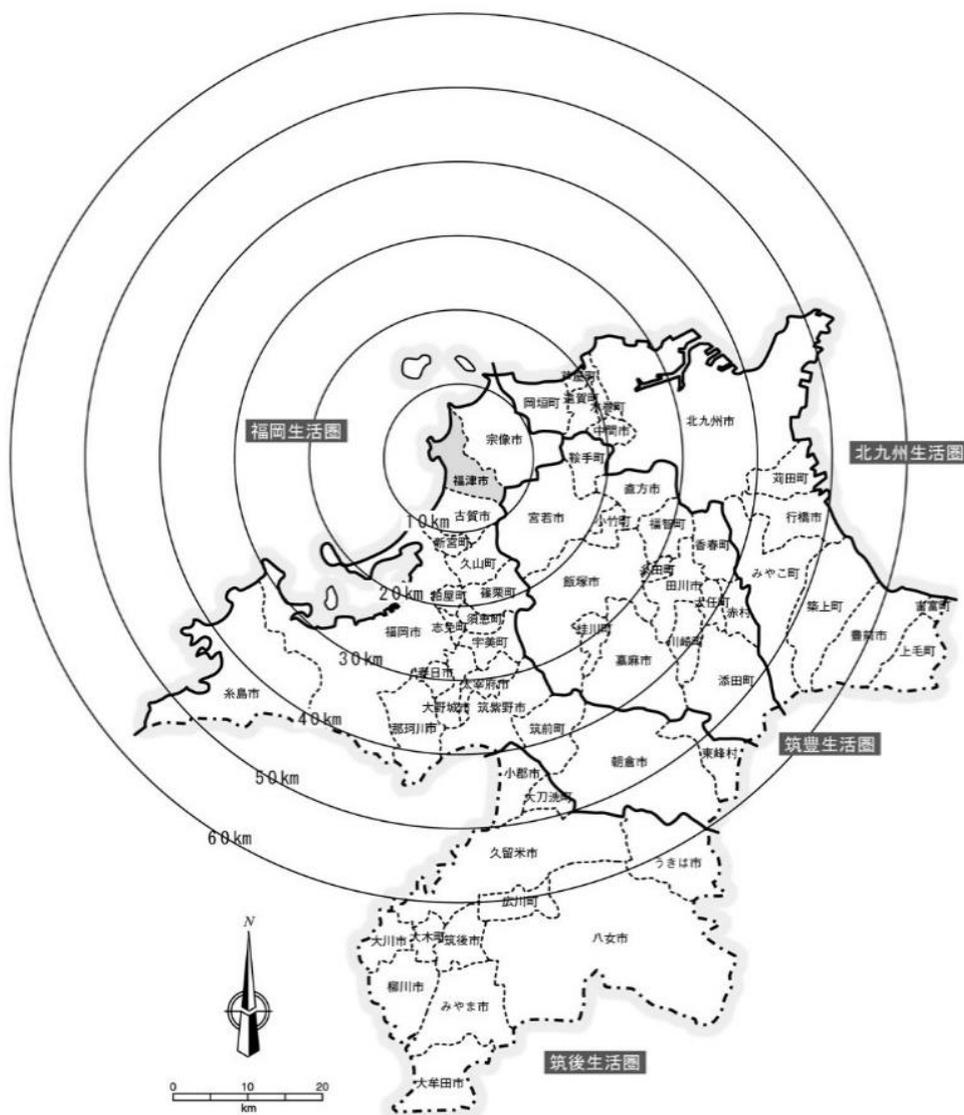


2. 位置と広域的役割

福津市は福岡県の北部に位置し、福岡市と北九州市に近く、福岡都市圏の東部に属しています。北東側は宗像市、南東側は宮若市、南側は古賀市に隣接しており、西側は玄界灘に面しています（図1-2）。また、東部を山、西部を海に囲まれ、特に海岸一帯と宮地嶽神社周辺の山林は、昭和31年に玄海国定公園に指定され、風光明媚な自然環境を形成しています。

一方、交通網が東西にJR鹿児島本線、国道3号が延び、海岸線と並行して国道495号が走っており、福岡・北九州両政令指定都市への通勤・通学の利便性を背景とした住宅地域として、さらには新鮮な食料品の生産供給地域としての広域的な役割を担っています。

図1-2 市の位置



【資料：福岡県市町村合併コーナーHP】

3. 気象

市の気候は、西側に面した玄界灘を流れる対馬暖流の影響を受け、比較的温暖で気候区は日本海型に属しています。過去5年間の年平均気温は16.6℃を超え、年間降水量は1600mm前後となっています。この地域の最大の特徴は、冬季に曇りや雨の日が多いこと、北西の季節風を受けて風の強い日が多いことです。

図1-3 九州・山口の気候区分



図1-4 福岡県の気温分布



図1-5 福岡県の降水量分布



【資料：福岡の気象百年（福岡管区気象台）】

表 1-1 福津市付近の気温と降水量

区分/年度	平成31	令和2	令和3	令和4	令和5
年間降水量(宗像)mm	1,455.5	1,991.0	1,767.5	1,070.5	1,718.5
平均気温(宗像) °C	16.6	16.5	16.7	16.4	16.9

【福岡管区気象台 宗像観測所データ】

4. 地象・水象

市の行政区域は、東西約 10 k m、南北約 13 k mに及び、面積は 52. 76 k m²です。西は玄界灘に面し、東には許斐山（標高 271m）や本木山（標高 268m）、在自山（標高 249m）、対馬見山（標高 240m）などがあります。

河川水系は、犬鳴山系を源とする本木川と畦町川、そして、それらが合流して西郷川となり、大内川、桜川、上西郷川、井尻川などの支流を集めながら、市の南部を東西に流れて玄界灘に注ぎ、全長は約 9 k mに及んでいます。冠岳西側、在自山東側の水系は手光今川となり玄界灘に注いでいます。河川は、二級河川（県営）の西郷川、手光今川の 2 つの河川等があります。

また、久末ダムや農業用ため池などの止水域もあります。

図 1-6 主要な山岳と海岸・河川・湖沼



【資料：都市計画課／農林水産課】

5. 人口

国勢調査による福津市の人口は、福間駅東地区の土地区画整理事業による住宅地開発等により大幅に増加しています。人口増に伴って世帯数も増加していますが、その一方で1世帯当たりの人口（平均世帯人員）は減少しており、核家族化の進行や一人暮らしの高齢者の増加が考えられます。

表 1-2 人口・世帯数と平均世帯人員の推移

年度	世帯数（戸）			人口（人）			1世帯当たり人口（人）
	旧津屋崎	旧福間	合計	旧津屋崎	旧福間	合計	
昭和50	3,064	6,402	9,466	12,002	24,190	36,192	3.82
昭和55	3,393	8,247	11,640	12,811	29,320	42,131	3.62
昭和60	3,641	9,704	13,345	13,484	34,020	47,504	3.56
平成2	3,829	10,472	14,301	13,421	36,152	49,573	3.47
平成7	4,196	12,787	16,983	14,033	40,111	54,144	3.19
平成12	4,604	14,086	18,690	14,298	41,480	55,778	2.98
平成17	-	-	19,492	-	-	55,677	2.86
平成22	-	-	20,482	-	-	55,431	2.71
平成27	-	-	22,272	-	-	58,781	2.64
令和2	-	-	26,534	-	-	67,033	2.53

【資料：令和2年国勢調査】

表 1-3 人口動態の推移（各年1月1日～12月末日）

（単位：人）

年	人口増加数	自然動態			社会動態			その他		
		増加数	出生	死亡	増加数	転入	転出	増加数	その他増加	その他減少
平成25	937	△ 69	518	587	1,015	3,208	2,193	△ 9	8	17
平成26	1,064	△ 109	504	613	1,176	3,248	2,072	△ 3	10	13
平成27	1,172	△ 29	546	575	1,198	3,522	2,324	3	10	7
平成28	1,435	36	613	577	1,397	3,506	2,109	2	9	7
平成29	1,381	2	641	639	1,379	3,566	2,187	0	14	14
平成30	1,650	△ 9	647	656	1,658	4,092	2,434	1	12	11
平成31	1,524	10	631	621	1,514	4,092	2,578	0	10	10
令和2	1,000	76	684	608	926	3,343	2,417	△ 2	12	14
令和3	594	△ 23	641	664	609	3,037	2,428	8	18	10
令和4	630	△ 151	608	759	785	3,474	2,689	△ 4	10	14
令和5	312	△ 194	587	781	499	3,199	2,700	7	19	12

【資料：市民課】

6. 産業

6-1. 産業構造

市には製造業などの産業の集積が少なく、第三次産業中心の産業構造となっています。また農林水産業は担い手が減少しつつあり、若手の育成が急務となっています。

表 1-4 経済活動別総生産（令和3年度）

（単位：100万円）

区分	農林水産業	鉱工業	電気・ガス・水道・廃棄物処理業	建設業	卸売・小売業	運輸・郵便業	宿泊・飲食サービス業	情報通信業	金融・保険業
実額	1,004	12,676	4,895	10,805	16,740	2,601	3,072	505	3,393
構成比	0.7%	9.0%	3.5%	7.7%	11.9%	1.8%	2.2%	0.4%	2.4%

区分	不動産業	専門・科学技術、業務支援サービス業	公務	教育	保健衛生・社会事業	その他のサービス	輸入品に課される税・関税等	総額
実額	36,027	4,872	4,116	6,474	26,740	7,219	1,622	141,139
構成比	25.5%	3.5%	2.9%	4.6%	18.9%	5.1%	1.1%	100%

【資料：福岡県市町村民経済計算】

表 1-5 産業別就業人口

（単位：人）

区分	第一次産業	第二次産業	第三次産業	合計
人口	779	6,036	24,746	31,561
構成比	2%	19%	78%	100%

【資料：令和2年 国勢調査】

6-2. 農林水産業

市では、農地は年々減少し(表 1-6)、農家数も専業、兼業共に減少し(表 1-7)、農業従事者の高齢化が進んでいます。(図 1-8)。農業形態は、これまで、米および露地野菜を中心とした農業が展開されてきましたが、近年では経営の安定を図るため、米、麦、大豆などの土地利用型農業や施設園芸(野菜・果実)・高級果実(クリームスイカ)・有機米など消費者ニーズにあった都市近郊型の高度技術・高収益型農業が盛んになっています。

林業については、従事者は存在せず、材木として利用するための生産行為はほとんどなされていません。

また、漁業についても経営体数、漁業就業者などは減少傾向にあります(表 1-9)

表 1-6 耕地面積の推移

(単位: ha)

年度	農耕地		
	総数	田合計	畑合計
平成26	1,230	917	315
平成27	1,220	904	311
平成28	1,200	895	305
平成29	1,180	885	296
平成30	1,160	870	292
平成31	1,150	862	289
令和2	1,150	859	286
令和3	1,140	853	284
令和4	1,130	850	279
令和5	1,140	845	298

【資料: 福岡農林水産統計年報(H26まで)】

【資料: 九州農林水産統計年報(H27から)】

表 1-7 農家数・農業人口の推移

(単位: 戸)

年度	総農家数			専業 合計	兼業				
	合計	旧福岡	旧津屋崎		合計	旧福岡	旧津屋崎		
昭和55	1,354	711	643	296	142	154	1,058	569	489
昭和60	1,220	610	610	263	131	132	957	479	478
平成2	946	507	439	267	139	128	679	368	311
平成7	850	465	385	210	101	109	640	364	276
平成12	747	349	398	181	85	96	566	264	302
平成17	533	-	-	171	-	-	362	-	-
平成22	466	-	-	173	-	-	293	-	-
平成27	378	-	-	166	-	-	212	-	-
令和2	284	-	-	121	-	-	163	-	-

【資料: 農林水産省 農林業センサス】

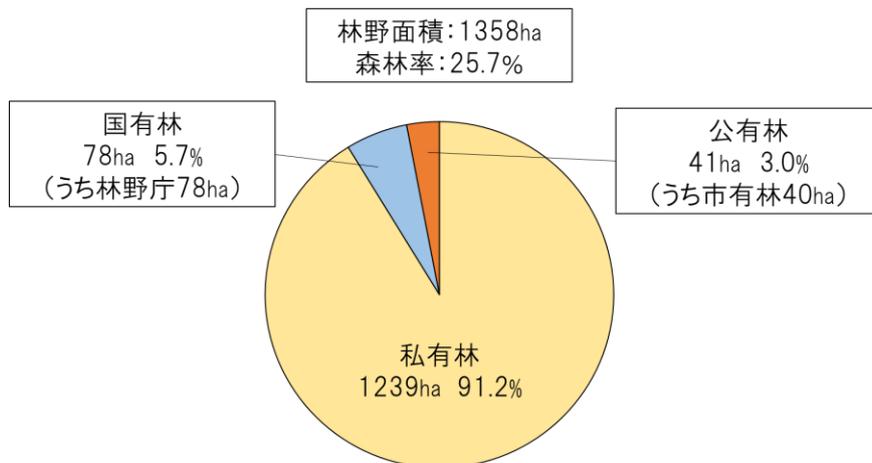
表 1-8 年齢別の農業就業人口

(単位：人)

区分/年度	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2
16～19歳	45	27	11	6	0
20～29歳	44	26	22	13	8
30～39歳	70	39	31	26	17
小計1	159	92	64	45	25
40～49歳	160	109	67	43	30
50～59歳	255	202	140	95	47
小計2	415	311	207	138	190
60～64歳	175	99	108	104	53
65～69歳	234	162	88	104	78
70～74歳	225	182	138	83	91
75歳以上	197	246	285	230	127
小計3	831	689	619	521	507
総数	1,345	1,092	890	704	859

【資料：農林水産省 農林業センサス】

図 1-7 所有形態別林



【資料：農林水産省 第70次九州農林水産統計年報（令和4年～5年）】

表 1-9 漁業の推移

区分/年度	平成10	平成15	平成20	平成25	平成30	令和5
経営体数(体)	54	48	41	35	21	45
漁業就業者数(人)	97	93	70	55	31	38

【資料：農林水産省 漁業センサス】

6-3. 工業

市では、工業事業所のうち、大手企業は、昭和34年企業誘致の条例により進出した(株)名糖産業(昭和34年)と(株)キューヘン(昭和35年)の2社のみで、零細企業が大半です。

表 1-10 製造業事務所数および製造品出荷額などの推移

(単位：事業所/万円)

年度	事業所数	製造品出荷額など
	合計	合計
平成25	30	2,634,387
平成26	28	2,809,409
平成27	32	2,646,955
平成28	25	2,892,451
平成29	25	2,762,274
平成30	24	2,930,647
平成31	24	3,008,621
令和2	24	2,664,578
令和3	28	2,889,554
令和4	28	3,068,440

【資料：経済産業省 工業統計】

6-4. 商業

市の事業所数においては、卸売業は減少傾向にありますが、近年、大型郊外店が出店したことにより、小売業の年間販売額の著しい増加がみられています。

表 1-11 事業所数と年間販売額の推移

(単位：事業所/百万)

年度	卸売業		小売業	
	合計		合計	
	事業所数	年間販売額	事業所数	年間販売額
平成26	54	11,803	392	53,502
平成28	57	12,597	402	64,754
令和3	51	17,039	405	63,548

【資料：経済産業省 経済センサス】

6-5. 観光

令和5年時点の観光入込客数は、年間約643.8万人ですが、そのうちの99.6%が日帰り客です。市は、福岡市と北九州市の中間に位置し、都市圏から車や電車でアクセスしやすい場所であることがその理由と推察できます。

しかし、令和2年は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言などの影響を受け、観光入込客数は大きく減少しました。その一方で、観光に対する意識や価値観が変化しており、令和4年度には新たなグランピング施設が開業するなど回復の兆しが見受けられます。

観光の目的別に見ると、「光の道」で有名な宮地嶽神社や、海水浴やマリンスポーツができる海岸、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の一つである新原・奴山古墳群などに県内外から多くの人々が訪れています。また近年では、「かがみの海」として知られるようになった福間海岸・津屋崎海岸・宮地浜を目的に市へ訪れる観光客が増加傾向にあります。

表 1-12 観光入込客数の推移

(単位：千人)

年度 区分	平成31		令和2		令和3		令和4		令和5	
	客数	うち日帰								
合計	5,709	5,692	4,734	4,717	4,762	4,741	5,837	5,812	6,438	6,413

【資料：福津市観光振興課】

表 1-13 目的別観光入込客数（令和5年度）

	自然	歴史・文化	温泉・健康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光	その他観光地点	行祭事イベント	合計
総数	36	5,303	0	380	558	141	20	6,438

(単位：千人)

【資料：福津市観光振興課】

表 1-14 令和5年度観光イベント一覧

	開花情報	イベント
春 (4～6月)	桜(宮地嶽神社、大峰山、飯盛山、な まずの郷、みずがめの郷) 藤(宮地嶽神社、善福寺、寶蓮寺) ほうき桃、菖蒲(宮地嶽神社)	ふくつの鯛茶漬フェア お魚センターうみがめ周年祭
夏 (7～8月)	ぼたん、つつじ、紫陽花(宮地嶽神社)	津屋崎祇園山笠 さざえ祭り ふくつビーチサッカーフェスティ バル
秋 (9～12月)	コスモス、彼岸花(新原・奴山古墳群) イチョウ(日吉神社)	光の道スイーツフェア 秋季大祭(各神社) 手づくり市 音楽散歩 夕日のまつり(宮地嶽神社) プリンセス駅伝 in 宗像・福津 畦町宿祭り ふくつフェスティバル 認定農業者みかん狩り あんずの里感謝祭 津屋崎千軒かき販売会 マグロ祭り 大しめ祭
冬 (1～3月)	梅(ほたるの里) 菜の花(新原・奴山古墳群) あんず(あんずの里運動公園)	玉せり 福津のいちごPR ふくつの古墳まつり スイーツウォーキング あんず祭り(あんずの里市) 夕日のまつり(宮地嶽神社)

【資料：観光振興課、商工振興課、農林水産課】